

早春の候、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
2月初旬の震えるような寒さからようやく解放されましたね。どちらさまも、体調を崩されたりしていませんか。

木々も芽吹き of 支度を始め、膨らんだ山の輪郭が霞んで見えるようになってまいりました。
職場や地域で、年度末の作業に追われる時期かと思いますが、ちょっぴり一服・・・

しばしの間、誌面にお付き合い頂ければ幸いです。



少年は大志を抱く！



嬉野市青少年育成弁論大会



大野原中・峯爽馬君は当たり前そこにあった大野原の自然が稀有だということに14歳の今、気付きました。あとの人にもこの美しさを残したい。「心を落ち着かせてくれる、移り変わる四季の景色。夕陽に照らされる秋のススキ、寂しげな虫の音、冬は雪一色」豊かな表現力に引き込まれました。



医師を志す決意をした大野原小・池田朔斗君。長寿国日本が抱える莫大な医療費や健康寿命との矛盾を鋭く指摘。苦しむ人全てを幸せにする治療法を考えられる医師になりたい。それは前途多難だと思うが、自信はある。目標とする、父がいるから。



平成三十年 二月 三日 (土) 市公会堂に於いて、市内小中学生の中から選抜かれた十五名(小学六年生九名、中学二年生六名の児童・生徒)による弁論発表が行われました。皆、大勢の聴衆に臆することなく、明瞭な声で、自分の思いを伝えていました。
特に轟小代表の城さんにおいては、体調不良のため会場に来られなくなった六年生のお姉さんのピンチヒッターとして、四年生の妹さんが立派に代役を務めるという感動の展開もありました。日頃から家族の会話が多くのだろうと想像できました。
また、「建築士になりたい」嬉野小・志田君は幼稚園の頃、隣家の建て方の緻密な技に魅了された情景を語ってくれました。



先輩方が、「生きているうちに伝えておきたか」という地元の史跡を紹介します。昨年10月31日、湯野田区の山口公平さん（左）、山口正文さん（右）のお二人に、木場の山の秘境を案内して頂きま

湯野田区木場地区から京野岳（きょうのだけ）へ入りました。落ち葉に埋もれた森の登り坂を、公平さんはヒョイヒョイ駆け上がります。やっと追いついて顔を上げると、大きな岩が器用なバランスで斜めに立っているのです。根元を覗いたりしてみました。どう成り立っているのかついにわかりませんでした。



もう1か所は、こんぴらさんという祠（ほこら）です。内野山のなるので、頂上では武雄方面が望めます。昔、山での作業の休憩で、横長の洞穴に皆で腰を下ろし、焚火でお餅を焼いて食べたそうです。今も現役でお茶やお米・野菜を栽培し、山が庭のようなお二人は、とにかく足腰が強くて驚きます。公平さんの茶畑は斜面にあります。通うだけでも苦になりそうで、「なんで頑張れるのかなあ？」・・・後姿を見ながら、尋ねた私。正文さんは、



「子どもの頃から親を手伝うのが当たり前でやってきたろう？その土地を守るのがプライドたいね」と、教えてくれました。

巨岩見学だけではなく、目に見えない「親孝行」を見せてもらった今回の探訪でした。取材に呼んで頂き、光栄に思います。ありがとうございました。



工事中はご理解・ご協力頂き
ありがとうございました



昨年11月9日の「縄張り」という作業から始まり、この2月末日、おかげ様で無事故で新館への移動を迎える事が出来ました。これまでの近隣・ご通行の皆様のご協力に感謝いたします。3月20日まではもう少しご不便をおかけしますが、4月の使用開始をどうぞ

二月十八日（日） 椎茸駒打ち体験

轟小の子供達二十九名が参加して、原木に菌の駒打ちをしました。ドリルで穴を開けるのは男性のお仕事で、子ども達は、そこへ長さ二センチくらいの円柱の菌駒を優しく、ハンマーで打ち込みます。

青少年育成部会辻田さんのご指導、特に池田校長・三根教頭には写真提供・動員呼びかけでお世話になりました。総勢9ト九名で盛りまりました。





お待ち下さい。（文責：谷山佳世）

